

2009年夏学期ジュリー 一当研究室から23人が発表 text_nakashima**Jury presentation of 2009 summer semester 23 members made presentations**

7月28日から30日にかけて、夏学期ジュリーが行われた。また博士課程では3名の学生が中間発表を行った。

Jury presentation of 2009 summer semester was held from 28 to 30 July. Three Ph.D. students made mid-term presentations.

**【修士1年】****阿部正隆**

「戦前における地方計画論の普及に関する研究」

大熊瑞樹

「都市のバイタリティに関する研究」

神原康介

「地方小都市における小規模多機能型居宅介護施設と地域づくりに関する研究 一広島県福山市鞆町さくらホームにおけるケーススタディ(仮)」

熊谷俊一

「日本におけるライフスタイルセンターの立地・空間構成に関する研究」

黒川佑人

「近代グリッド都市の形態的変容と規定要因の関係性について 一北海道札幌市を対象として」

櫻庭敬子

「周縁都市における多文化共生のあり方に関する研究 一埼玉県川口市をケーススタディとして」

鈴木亮平

「震災都市の復元に関する研究」

永野真義

「団地建替えにおける空間的指標に関する研究」

山下航司

「観光地化と市街地活性化の二つの面から見る空き家・空き地の活用に関する研究 一鳥取県倉吉市打吹地区を事例として」

【修士2年】**菊地原徹郎**

「地方小都市における新産業導入を契機とした地域社会変容に関する研究 一福島県田村市船引町の集落に着目して」

竹本千里

「戦後の隅田川における景観認識および評価の変遷に関する研究」

土信田浩之

「町屋における現代的住まい方の特徴とその街並みに関する研究」

中島和也

「戦後日本における引揚者を取り巻くまちづくりの展開 一引揚者マーケットの形成とその後の変遷に注目して」

西川亮

「地域遺産の広域連携によるマネージメント 一欧州評議会(Council of Europe)による文化の道の策定と発展に関する研究」

藤井高広

「都市における工事現場の意義についての考察 一工事現場の都市環境向上に向けた取り組みに着目して」

六田康裕

「景観地区の指定プロセスに関する研究」

【博士課程】**タリック・マハブーブ・カーン**

「Sustainable Urban Management: An Investigation towards a Conservation-oriented Approach for Old Dhaka」

ミレイ・チャビ

「Typo-morphologies from centralities in Asian metropolises: Tokyo's nodes and Bangkok embroidery of centralities' systems」

鄭一止

「エコミュージアムを起点とした保全マネジメントに関する研究 一地域主体を中心としたまちづくり体制とその変遷プロセスを中心に」

南知賢

「Study on Regional Symbiosis through the Interconnection of Industrial Heritage in modern port cities」

【博士課程中間発表】**金宗範**

「韓国地方大都市の中心市街地活性化のための政策的改善に関する研究 一釜山広域市の中心市街地を対象に」

鈴木智香子

「民有空間の活用による住民活動を通じた住環境整備に関する研究 一既成市街地を対象として」

楊恵亘

「台北市において文化・芸術を主軸においた都市空間背策による都市再生に関する研究(仮)」

Compact urban space-Shibuya D3 jong-bum KIM

留学生のエッセイ No.02

When I came to Japan as an international student, I had lots of opportunities to look around many urban centers of Tokyo. It was very interesting that each place of Tokyo has its own characteristics while similar areas in Korea feel the same atmosphere. In Tokyo my favorite place of these places is Shibuya.

Shibuya is famous for its unique teenage subculture, but it also has many functions for people of different ages. There are diverse cultural functions like music or art, stylish cafés and restaurants, and

many cool shopping places including department stores for both young and adults.

My attraction to Shibuya is that it is made up of a compact urban space although it is a global urban center that hundreds of thousands of people pass through. At the famous scramble crossing of Shibuya, one can feel the dynamism and chaos of a metropolitan city. When walking into the roads off the main streets, there is a human-scaled urban space and many spaces reflecting the various subcultures.

Continuing a bit further, one can find Yoyogi park which is a green oasis in the city.

Shibuya is a cool place that we can experience the diversity of urban functions in a walkable compact area. Shibuya is not organized well with blocks like new urban centers. But it always allows new fashionable and cultural contents within the old district. Shibuya is very active metropolitan area, but still, one can feel comfort and familiarity while there. These two different faces-old and new-is the reason that I love this place!

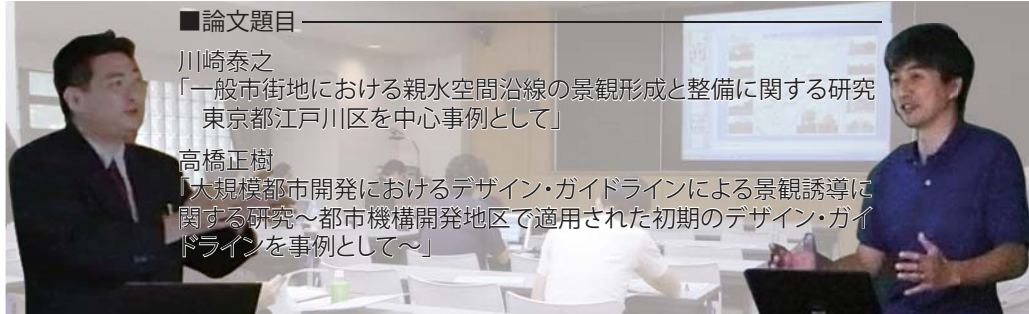
まちづくり大学院初の修論審査会が行われる

Referee committee of machidukuri graduate school was first-time established

—当研究室から2名が発表—

text_kikuchibara

8月1日(土)の13時から、社会人向けの大学院「東まちづくり大学院」創設後初の修論審査会が行われた。1期生19名のうち11名が修論審査に望み、当研究室からは社会人学生の川崎泰之氏と高橋正樹氏の2名が発表を行った。2年間研究した成果が発表される場とあって、会場となった141号室の座席後部は2期生を始めとする学生や関係者でほぼ満席となった。仕事と学問の両立という困難な状況の中、各自仕事と関連が深いテーマでの発表とあって、一人ひとり発表にかける「重み」を強く感じた3時間だった。修了式は9月28日に行われる。



■論文題目

川崎泰之

「一般市街地における親水空間沿線の景観形成と整備に関する研究
東京都江戸川区を中心事例として」

高橋正樹

「大規模都市開発におけるデザイン・ガイドラインによる景観誘導に関する研究～都市機構開発地区で適用された初期のデザイン・ガイドラインを事例として～」

永瀬D4の博士論文審査会開かれる

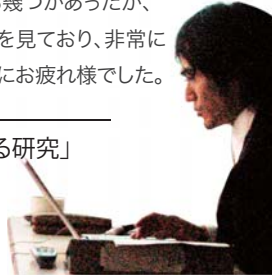
text_nakashima

Final defence of Nagase's dissertation was held

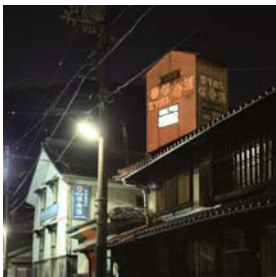
7月27日(木)16時、永瀬節治D4の博士論文審査会が始まった。主査は西村幸夫教授、副査には伊藤毅教授、小野良平准教授の両氏を迎えての審査である。研究室のメンバーが見守る中、永瀬さんの気迫のこもったプレゼンテーションは1時間余にわたって続いた。審査では厳しい指摘も幾つかあったが、「非常に面白いテーマである」という部分では一致を見ており、非常に有意義な議論が交わされていた。連日の徹夜、本当にお疲れ様でした。

■論文題目

「近代日本における参詣空間の創出に関する研究」
—明治期から昭和前期にかけての
参詣をめぐる社会的文脈と空間づくり—



プロジェクト報告 Project Reports



鞆

ヨルトモに向けて着々と進行中!!

text_abe

今年度第二回調査を実施。8月1～3日にかけては建築史班が茶屋蔵の実測を、6～7日にかけてはヨルトモへ向けた準備としてライトアップ実験、地元の方々へのヒアリングを中心に行いました。今年は昨年の反省を踏まえて、広報にも力を入れていこうと頑張っています。ヨルトモ'09は9月12～13日に開催。第二回鞆の津ともえ祭りも同時に開催されます。ぜひ、ひと味違う夜の鞆を体感しにいらして下さい!!



神楽坂

早稲田法科大学院とのコラボレーション

M1神原

8月3日、神楽坂キーストーン法律事務所において、早稲田大学大学院法務研究科の日置研究室と都市デザイン研究室神楽坂チームが集まり、どのような仕組みづくりが神楽坂にとって有益となりうるか等、それぞれの専門の立場から幅広く議論がなされました。今後は双方の学生がチームを組んで、8月24日の成果報告に向けて議論を重ねていきます。



自主PJ

M1有志がコンペに参加

M1大熊

M1の有志で愛知県三河田原のコンペに参加することが決まり、8月2日に現地見学を行いました。地方のローカル線の終着駅、都市計画道路の整備予定、既存の工場用地の更新、パークアンドライドなど、論点が様々ある、非常に奥の深い対象地でした。これからは週に1回ほどミーティングを行い、案をディベロップさせていきます。締め切りは9月6日と時間はあまりありませんが、短期集中で最善を尽くします。

UDCK主催の まちづくりスクール

Machidukuri-School has finished

UDCKの主催するまちづくりスクールも今年で4回目となる。8月1日に修了式を迎えるにあたり、ファシリテーターとして参加してきた北沢研究室のM1に感想を聞いた

空間研M1 丸上

まちづくりスクールは、「まちを市民がデザインする」をテーマとした企画です。各講師のレクチャーは実践事例が豊富で、参考になりました。また、柏市民、学生、開発関係者等、参加者との交流は純粋に楽しかったです。運営面では、市民スタッフが支援してくれました。積極的な意見交換は勿論、秋コースの内容を自ら提案する方もいました。私自身その姿勢から学ぶ事も多かったです。

本スクールは、教養、交流、市民参加、協働など、まちづくりに必要な様々な要素を経験できる、大変有意義な場でした。



都市デザイン研究室 瓦版

情報欄

OBの結婚



後藤さんご夫婦

OBのおめでたい話をいくつかご紹介します
柴田直さん(07年3月修了)が5月16日に式を挙げました。研究室宛のお葉書有難うございます。また、後藤健太郎さん(08年3月)が8月9日に式を挙げました。おめでとうございます!!

8月上旬の予定

- 8月19-21日 足助PJ調査
- 8月24日 神楽坂PJ発表会
- 8月26-28日 建築学会
- 9月2-6日 高山PJ調査
- 9月11日 渡辺定夫先生の喜寿を祝う会
18時30分～
於学士会館(神田)

編集後記

既に記事でお伝えしたように、ここ最近当研究室のメンバーが多くの学位論文を提出しました。審査会を傍聴する度に焦燥感に駆られます。後悔ない夏を過ごしたいと思いますが、言いつつもお盆。いや、ここから頑張れば間に合います、きっと・・・。

text_nakashima